

## 後記

2003年8月25日未明、戸田宏文博士（徳島大学名誉教授）は逝去された。前年の秋に身体の不調を訴えられて以来、闘病の日々であられた。このたび出版される『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本 (No. 4-21)——ローマ字版2』は戸田先生の遺稿である。

先生は、1993年にネパール国立公文書館所蔵の梵文法華経写本 (no. 4-21) のローマ字化に着手された。1994年4月には東洋哲学研究所から正式に「ローマ字転写本」を完成してほしいとの依頼を受け、同年10月に手稿本（手書き原稿）を完成、1997年3月17日に、印刷のための原稿（タイプ原稿に特殊符号を記入したもの）を完成された。第1章から10章までは2001年5月に「ローマ字版1」として出版されたが、ゲラ段階では1998年11月に完成した「写真版」を参照しつつ、丹念に校正を加えられた。

一方、第11章から27章までについても、2000年4月より「写真版」を参照しつつ、再度校正を開始され、2000年8月23日に再治を完了されていた。その後、すぐに出版すべきであったが、「ローマ字版1」のパソコン入力を担当した水船教義がシリーズの他の出版などに関わり、入力作業も思うに任せず、先生の生前に出版することができなかつたことは慚愧にたえない。

2003年、『東京大学総合図書館所蔵梵文法華経写本 (No. 414)——ローマ字版』の編集を終えつつあった小槻晴明が本ローマ字版の編集に参加し、作業は一挙に進捗した。水船は百万の味方を得た思いであった。原稿のパソコン入力は第11章と15章を水船が、第12章から14章、16章から27章までを小槻が担当し、本文の校正は小槻、水船が担当した。

この「ローマ字版2」がインド学仏教学、さらには仏教および学術全般への貢献となり、また戸田先生への供養ともなれば、これに勝る喜びはない。

2004年2月12日

小槻晴明

水船教義